

ぶらりまち紀行

澄み切った秋空に悠々と舞う大漁旗
 泊の海にのんびりとした時間が流れる
 海の恩恵に感謝しつつ
 人々は祭りで英気を養う
 神輿がお宮入りすると
 港がにわかには活気づく
 秋本番を迎える



～地域の輝き～

佐田神社例大祭（椿泊地区）



境内から担ぎ出された神輿は約500^{キロ}。男たちは、エイサ〜エイサ〜と威勢のいい掛け声で西へ東へと椿泊を練り歩く。祭りの始まりだ。

その昔、29日間も行われたことがあるこの祭りは、別名「だらだら祭り」とも呼ばれ、神輿ごと海に入水するシーンは豪快で見応えがある。

この「だらだら」とは、その長さをマスコミが表現したもの。地元でそう呼ぶ人はいないが、知名度は高い。長い歴史をたどれば、たった1日しか行われなかった年もあるという不思議な足跡もまた、この祭りの魅力の一つだ。

5つの傍示の中心部には、「掛越」と呼ばれる清めの門と五色の笹飾りであしらわれた大幕が構えられた。その袂で神輿はとどまり、地域の繁栄を祈願する。そこでは酒やつまみが振る舞われ、歌や踊りで宴の輪が広がる。大人に負けじと子どもたちも鉦や大鼓を鳴らして祭りを盛り上げた。

この日ばかりは町中が家族になる。そこには、長い歳月のなかで培われてきた美しき祭り文化が根付いていた。

